

APG WP3 議長 (2016年7月選出(再任)) 阿部 宗男氏 (三菱電機) に聞く

【読者のための豆知識】

APG WP3 (衛星関係)の活動内容:

ITUのWRC-19に向け、APT地域での統一見解をまとめ、共同提案することを目的

=== ===

専門領域: 衛星通信ネットワーク・システム技術
略歴: 1978年 東京大学大学院 工学系研究科電子工学修士課程 修了
1978年 国際電信電話(株)(現 KDDI)入社
2008年 三菱電機(株)へ移籍
1982年 CCIR SG4 IWP4/1 (現 ITU-R SG4 WP4A) 参加
2000年 APG 会合参加
2003-2012年 ITU-R SG4 副議長
2008年 APG WP(衛星関係)議長 (現在に至る)
2012年 WRC-12 COM5 議長

=== ===



— APT議長職という重責を担われていることについて任命を受けられた際のお気持ちと、それ以降の感想をお聞かせ下さい。

(阿部) 2008年より衛星関連のWRC議題を所掌とするWPの議長を務めさせていただき、今回3期目となります。ご推薦いただいた総務省様をはじめ、選任いただいたAPT各国に感謝しております。ご期待を裏切らないよう頑張ります。これまでの経験から、APT地域は日・中・韓のような通信先進国とこれから通信網を構築・整備する国が混在しており、周波数を地上網に利用するか衛星網に利用するかなど意見がまとまりにくい地域だと実感しております。何とか共通の方向感を見出しAPG会合を意味のある会合にしたいと考えています。

— 現在の議長職の任期はいつまでですか?また、御自身の担当領域と経歴、APTとの関わり、その他標準化機関での活動を教えてください。

(阿部) APG WP議長の任期は2019年のWRC会合までです。APGは1997年に設置され私は2000年から参加しています。ITU-R会合にはもっと前の1982年より主にSG4関連会合に参加しています。会合に参加するたびに新しいことを学び勉強になったと感じます。

— APTでの活動は、私達の情報通信・放送分野における発展に非常に重要な役割があると思いますが、現在の職責における最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか?

(阿部) 衛星通信関連では、1)近年特に移動する物体との衛星通信需要が増加しており、この需要に対応するための周波数利用形態をどう工夫するか、2)非静止衛星の利用が着目されており、周波数共用・利用の点で非静止衛星システムをどのように効率良く構築するか、3)地上系、特にIMT網と衛星網の周波数共用、優先度の整理などが挙げられます。

— 議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか?

(阿部) WPの所掌となっているWRC議題・課題の全てにおいてAPTの統一見解を構築し、WRCへAPT共同提案を提出することが目標です。そのためには各議題・課題を担当するDG(Drafting Group)での意見のすり合わせが大切で、DG議長さんの議事の進め方を含め、DGでの議論を如何に支援するかが課題と思っています。

— 議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか?

(阿部) 最初の質問でお答えしたように、APTは異なる立場の国が多く、意見のまとまりにくい地域です。それをどうやってまとめるか毎会期悩むところです。ただ、その前に議長は公平であることが第一と肝に銘じています。各国の意見を公平に扱わなければ参加メンバーの信頼を得ることができず、会議をまとめることもできません。そして、その次にOff-lineでの調整が重要と考えています。議中の議論だけでは合意に至らない議題があります。会議中のキーになる発言の意図をOff-lineで良く確認し、関係国間の調整を行って、合意に向けた下地を可能な限り醸成しておくことが、次に開く会議で合意するために重要な活動だと思っています。

— わが国、各加盟国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(阿部) 日本は諸課題に関する技術的な解析力や各業務間の周波数利用を公平にバランス良く考えるという点で、APT の中でも最も優れた国の一つだと考えます。この検討結果を日本が APT 各国に Off-line の場を含めて解りやすく説明することにより、日本意見への支持と日本への信頼感を得ることができると思います。

— 他国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(阿部) 各国異なる意見の中から妥協点を見出すために、各国の立場に多少の柔軟性を期待します。少しの柔軟性があれば、主張の本質・原点を理解し、譲れる点、譲れない点を探っていくことにより妥協点が見出せる場合が多いと考えています。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(阿部) 信条ではありませんが、健康・体重維持のため南雲式ダイエットという「一日一食」生活をしています。アルコールが飲めるよう摂る一食は夕食です(笑)。東日本大震災のあった 2011 年に始めました。いつ give up してもおかしくないと思いながら、何とか 5 年続いています。会合では他の参加者と昼食を一緒にできず、付き合いが悪くて申し訳なく思っています。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(阿部) これから国際会議に参加される方へ。国際会議への参加は、寄与文書を作成して提出することが第一歩だと考えます。寄与文書を出せば、それを会議でプレゼンし、質問に答えなければなりません。いやでも議論に参加することになります。単に会議に出席して報告書を書くだけでは真に参加したとは言いにくいですよね?是非、寄与文書提出をご検討下さい!

文責:(一財)日本 ITU 協会(M)